



令和4年度 山形県「郷土愛を育む活動推進事業」
郷土 Yamagata
ふるさと探究コンテスト実践記録集
山形県教育委員会



御挨拶

山形県教育委員会では、本県教育の目指す姿と施策等を示した「第6次山形県教育振興計画」の基本方針の一つに「郷土に誇りを持ち、地域社会の担い手となる心を育成する」ことを掲げております。この取組みの一環として、児童生徒の皆さんが、自分の住んでいる「郷土やまがた」と向き合い、学んだ成果を広く発表し合うコンテストを、11月の「やまがた教育月間」に合わせ開催しており、今年度で7回目となりました。

今回は、22校、37チームにエントリーをいただきました。コロナ禍にあっても、多くの学校において、郷土に誇りを持ち、様々な工夫を凝らしながら活動を継続し、地域の良さを伝えようとする機運が着実に浸透してきているものと考えております。

最終審査会は、昨年度新型コロナウイルス感染防止のためオンライン開催となりましたが、参加校より「会場でのリアルなプレゼンをしたい」との声が多く挙がったことから、今年度は、感染防止対策を万全に行った上で例年通り対面での開催としました。一次審査を通過した9チームの皆さんの発表では、小学生・中学生・高校生それぞれの発達段階に応じた探究型学習の成果が披露され、ICTを駆使して郷土の良さを発信する姿は、令和の時代を生き抜く本県の担い手として大変頼もしく感じました。

また、会場をはじめ、パブリックビューイング会場やオンラインで観覧された方にも、郷土やまがたの良さ、魅力を再発見する機会になったと思います。

この記録集をご覧いただき、各チームの実践を振り返るとともに、これからの学習の更なる充実・発展に役立てていただければ幸いです。

最後に、最終審査会の司会進行を務めてくださった県立山形東高等学校放送部の皆さん、このコンテストの審査員となっただき、小学生・中学生・高校生それぞれの成長に資する的確な評価と温かい励ましの言葉をいただいた沼野慈様、堀川敬子様、渡部泰山様に、改めて深く感謝申し上げます。



山形県教育委員会教育長
高橋 広樹

「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」とは？

<趣旨>

小・中・高校生による地域を素材とする学習及び体験活動の成果を募集し、優れた取り組みを表彰することで、自分の住む地域の自然や文化、歴史、偉人などのふるさとの良さを発見・再確認し、郷土に対する愛着や誇りを育みます。これらの取り組みを広く発信することで、小・中・高校生がお互いの地域の良さを知るとともに、保護者や地域住民にとっても、地域の魅力を再認識する機会にします。

<審査方法>

一次審査：審査員による書面審査で最終審査会参加校選出
(小・中・高校生の各部門3チーム)

最終審査：プレゼンテーションによる発表(1チーム7分間)

審査員が発表内容を審査し、各部門において、最も優れたチームに「ふるさと探究大賞」を授与

開催日：令和4年11月23日(水)13:00～ 審査会場：遊学館

審査員

沼野 慈 審査員

企業で食品添加物や食材の研究や特許開発に従事した経験から、食の安全や女性の就労環境、子育て問題等に強く関心をもつようになり、地域活動家となる。現在、NPOもがみ理事長等を務める。

堀川敬子 審査員

東京からのUターン後、青年会議所や商工会議所青年部などで、地域活動に参画。NPO法人天童NPO支援サロン理事、山形県まちづくりサポーター等を経て、現在は「逢いの蔵」共同代表。

渡部泰山 審査員

東北芸術工科大学特別講師で、専門分野は学校経営学、教育と芸術学。山形県内高校で教諭、教頭、校長を務める。山形県教育次長、山形東高校校長を歴任。山形大学の教授、東北芸術工科大学特命教授を経て現在に至る。

司会進行

山形県立山形東高等学校放送部



庄司希愛さん



鈴木優衣さん



堀米莉香さん

小学生・中学生・高校生それぞれに合わせて言葉を選び、全てのチームにコメントをそえて、心温まる司会進行をしてくれました。

スペシャルゲスト

ソラシド

愛媛県出身のボケ担当、本坊元児(ほんぼう がんじ)氏と大阪府出身のツッコミ担当、水口靖一郎(みずぐち せいいちろう)氏の2人が2001年1月にコンビを結成。

2018年10月から、よしもと山形県住みます芸人に就任。テレビやラジオの出演、SNSによる活動の発信により、本業のお笑いのもとより、県内各地のHOTな情報を紹介するなど活躍中。令和3年4月より、やまがた特命観光・つや姫大使を拝命。今年4月からYBC「ワクワク!やまが旅」の放送がスタート。



令和4年度郷土Yamagataふるさと探究コンテスト 最終審査会 次第

日時：令和4年11月23日(水) 13:00～

場所：遊学館ホール（山形市）

司会：山形県立山形東高等学校放送部

1 開会式

(1) 山形県民の歌「最上川」 村山市立楯岡小学校合唱部

(2) あいさつ



コロナ対策のため、会場での斉唱は行わず、令和元年度に村山市立楯岡小学校の皆さんが歌った県民の歌の動画を紹介しました。

2 発表

(1) 小学生部門

- ① 天童市立干布小学校
＜6年1組＞ We HOSHINUNO プロジェクト「みんなの笑顔で Happy 干布！」
- ② 尾花沢市立宮沢小学校
＜5,6年複式学級チーム＞ さわのはなを通じて、宮沢の良さを発信しよう！
- ③ 米沢市立三沢西部小学校
＜ブナの会＞ 先人に学び、世界を見つめ、未来を想い、足元から行動する

(2) 中学生部門

- ① 東根市立大富中学校
＜大富農業カンパニー＞ 持続可能な地域貢献～3年間の挑戦！と品質へのこだわり～
- ② 真室川町立真室川中学校
＜第3学年 チーム「まむろがわ」＞ 町の課題解決に向けて、発信活動に挑戦
- ③ 鶴岡市立櫛引中学校
＜美術部＞ 中学生が地域を救う存在に～鶴岡市立櫛引中学校美術部の活動紹介～

(3) 高校生部門

- ① 山形県立山形中央高等学校
＜チーム・山形しか CATAN！＞ 「やまがた居場所づくりプロジェクト」
- ② 山形県立置賜農業高等学校
＜ニオイ木研究班＞ 日本一空気のきれいな山形県を探究する
～ニオイ木の開発と普及への挑戦～
- ③ 山形県立鶴岡南高等学校
＜チームシルク＞ ツクル ツムグ ツナグ シルク

3 講演 スペシャルゲスト：山形県住みます芸人ソラシド

4 表彰式・閉会式



主催 山形県教育委員会

～ふるさと納税に寄附いただきました～

この度、使途明示型ふるさと納税特定プロジェクト「郷土Yamagataふるさと探究コンテスト」に寄附いただきました。寄附金は、開催に係る準備、運営に活用させていただきます。

御芳名 東京都新宿区 安彦 広齊 様

御寄附いただき、ありがとうございました。

ふるさと探究大賞

尾花沢市立宮沢小学校

5,6 年複式学級チーム

押切拳志朗 押切蒼空(6年) 齊藤慶 柴田鉄汰 高橋夏輝

加藤希 齊藤凜子 高橋羽麗 原田杏奈 樋渡悠那

押切蒼空(5年) 菅野優心 山口真太郎



さわのはなを通じて、宮沢の良さを発信しよう！

1 テーマについて

尾花沢市で誕生したお米「さわのはな」を調べ、まとめ、校外に発信する活動を通して、その良さを地域・山形県・全国の人に知ってもらいたいと考えています。また、宮沢地区に住む方から様々な情報を集める中で、宮沢の良さを知り、地域を愛する心情を育てたいと思い活動しています。

2 テーマに基づく活動について

(1) 稲作体験

農事組合法人「魁」から協力をいただき、体験しました。田植えは、当時の人の思いを考えながら、手作業で行いました。また、稲刈りの後の天日干し(はせがけ)は、学校のうんていを利用して行いました。脱穀のあとに残った藁は肥料として再利用しました。



(2) 調べ活動

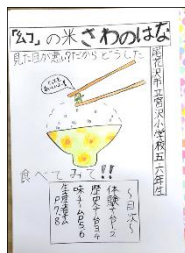
自分たちで調べたり、「魁」代表者の鈴木文雄さんに質問したりすることを通して、「さわのはな」は 1949 年に交配されたこと、農業試験場尾花沢試験地で栽培されていたこと、1997 年に「機械化に向かない」、「収穫量が少ない」、

「乳白米(夏の日照不足により米が白くなる)が多い」ため、奨励品種から外されたことが分かりました。でも、実際に食べてみると、甘みと粘り気が強くおいしいお米であることも分かりました。

(3) PR、交流

① 修学旅行での PR

「さわのはな」のよさをまとめたパンフレットと収穫した「さわのはな」を持参して、修学旅行で PR してきました。お返しの手紙やメールを送ってくれた方もいました。



② You tube による PR(昨年度)

南陽市立漆山小学校とのオンライン交流での学びを生かして動画撮影を行い、限定配信しました。



漆山小学校は、今年の修学旅行で本校に来てくれました。オンラインでつながっていた仲間と実際に交流ができて、とても嬉しかったです。



③ 「影法師」によるコンサート

活動を通じて知り合った長井市の「さわのはな」農家の遠藤孝太郎さんが所属しているフォークソンググループ「影法師」から来校いただき、開校 10 周年コンサートを開催しました。地域住民 200 名以上が参加しました。



3 これからの活動に向けて

1 月初旬に、東京でフランス料理店を営んでいるシェフより連絡がありました。

「『さわのはな』の料理を宮沢小学校の児童に食べてもらいたい。」シェフの名前は佐藤豪(すぐる)氏。宮沢地区出身の大先輩。数日後、何と東京から「さわのはな」で作られたプリンが届き、全校児童でいただきました。

「さわのはな」を通じて、多くの人とのつながりが生まれています。今後も、ふるさとの良さを発信していきます。

ふるさと探究大賞

真室川町立真室川中学校

第3学年 チーム「まむろがわ」

松井悠莉 新田透乃 佐藤惇平 姉崎大雅 立花聖翔

富樫美稀 柿崎健吾 伊藤花音



町の課題解決に向けて、発信活動に挑戦

1 テーマについて

真室川町は素晴らしい自然環境の中、先人たちが創り上げてきた歴史や地域に根差した文化が宝物として受け継がれていますが、現在は人口減少等、様々な課題が山積みになっています。そこで、町の方々と交流・協力し絆を深める中で、様々な魅力を体感し、その良さを発信する活動に取り組みました。そして、郷土愛を深めるとともに、個々の生き方を見つめ、自分らしさを見つけていけるよう学習を進めていくことにしました。

2 テーマに基づく活動について

1年時の「調べる」活動、2年時の「発信する」活動を踏まえ、3年時は「提言する」活動として、下の図のような流れで、PR商品の開発に向けて取り組みました。



(1) 保護者への発表会

動機が明確なこと、様々な方の協力を得て裏付けるデータをとっていることなどを評価していただきました。また、後輩へも発表会を行い、取組みを共有しました。

(2) 地域への提言

保護者発表会での投票を受けて、以下6つの企画を町議場で提言し、また、その他5つのミニプレゼンを行いました。

① 空き家・廃校活用プロジェクト

地域おこし協力隊や新庄神室産業高等学校真室川校の先輩から意見をいただき、廃校となった学校のグラウンドをグランピング施設として活用する案を考えました。町内外の若者や家族連れをターゲットにしています。

② 真室川ガチャ自動販売機

商店街の活性化のため、ガチャの中に飲食店の割引券を入れ、多くの人を楽しめるように工夫しています。町役場の方からのアドバイスを受け、実現化に向けて取り組んできました。



③ 駅前商店街活性化プロジェクト

新庄市のNPO法人や真室川町商店街の方にお話を伺いながら、商店街を知るきっかけやリピーターを増やすために、商店街を活用したイベントを企画しました。



④ 真室川伝承野菜を使った料理

町の栄養士から助言をいただき、鞘ごと食べられる「弥四郎ささぎ」の食感を生かした「うんめえコロッケ」を開発しました。12月に給食のメニューとして出されました。



⑤ 真室川食材を使用したスイーツ

甚五右衛門芋(じんごえもんいも)を使用し、芋の特性と食べやすさを生かし、シューアイスとして商品化できるよう取り組んできました。



⑥ 真室川りんごを活用したバスボム

りんごの香りを生かしたバスボムで、年齢を問わず多くの人に使ってもらいたいと考えています。イベントの体験コーナーも企画しました。



3 これからの活動に向けて

真室川中の「五大目標」の1つに「奉仕」があります。今回の活動によって地域貢献の糸口を見つけました。

今後は真中生として、更に地域に貢献することはもちろん、地域の方にも協力していただきながら、ともに地域をつくっていききたいと思います。

郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト 高校生部門

ふるさと探究大賞

山形県立置賜農業高等学校

ニオイ木研究班

菅井歩夢 竹田真美 今夏希 高橋端希 渡部夏帆
長谷部優太



日本一空気のきれいな山形県を探究する～ニオイ木の開発と普及への挑戦～

1 テーマについて

人類はこれまで経験したことのない地球レベルでの「気候変動」や「新型コロナウイルス感染症」など大きな問題に直面しており、私たちの命を守る生活環境の創出が重要なものとなっています。研究テーマである「ニオイ木プロジェクト」を通して、持続可能なカーボンニュートラルの実現を図り持続可能な開発目標(SDGs)にアプローチしたいと考えました。

2 テーマに基づく活動について

(1) 研究のきっかけ

川西町で希少生物を研究している方が、所有する山林でニオイ木を発見し、さし木で増殖を試みたものの失敗したことから、増殖を依頼されたことが研究のきっかけでした。

(2) ニオイ木の空気浄化能力の解明

研究は、NASAの宇宙船開発で研究された観葉植物の空気浄化力に着目し、浄化力の高い5種類(サンスベリア、ドラセナ、ゴムの木、カポック、パキラ)と比較しました。

すると、「トライコームが(毛状突起)が密に発生している」、「葉面積指数が最も大きい」、「1cm²あたりの気孔数が最も多い」、「蒸散力が最も優れている」ということが分かりました。

また、葉の浄化力を計測してみると、アンモニアガスの浄化力はパキラの2倍、硫化水素ガスの浄化力はパキラの3.6倍と、非常に高い浄化力を示しまし

た。ニオイ木は、汚染物質を吸収して大気や土壌を浄化する「スーパー植物」であることを確信しました。



(3) 効率的な増殖への挑戦

失敗の連続でしたが、幼芽からの培養により、無菌培養が成功し、地元にある農場の協力を得て実証培養を開始したところ、50本の苗木から1tの葉を収穫することができました。

(4) 活用方法の創造

介護施設の協力のもと、ニオイ木の鉢物を設置し実証試験を行ったところ、トイレでは68%の空気浄化を示し、「空気浄化」、「湿度調節」、「緑のインテリア」により、癒し効果を相乗的に発揮することを確認しました。

次に、葉を乾燥させることで、保存性、加工適性に優れ、多用途な商品開発ができることに着目し、山形県の無形文化財である深山和紙とコラボした、通気性の高い臭いとり袋の開発に取り組みました。試作を繰り返しながら企業とブランディングを重ね、商品化が決定しました。冷蔵庫や靴箱、トイレなど、多用途で活用できます。



3 これからの活動に向けて

今後の課題は「活用の幅を広げ普及すること」、「農福連携を推進し地域農業と関連産業に貢献すること」、「宇宙レベルの構想を持ち地域レベルから実践すること」の3つです。ニオイ木の開発は、地元産業の雇用拡大と農業振興につなげられる素材であり、介護事業を展開するNDソフトウェア(株)との連携による3億円事業へと期待は高まります。空気浄化スーパー植物ニオイ木の開発と創造の探究により、持続可能なカーボンニュートラルを実現できると確信しています。これからも挑戦は続きます。

3 『すべての人に健康と福祉を』など (10の持続可能な開発目標)

全国に誇る山形県の新たな魅力の創出 持続可能な社会の構築に貢献する

順調に増殖 佐藤病院・山形大学で実証実験

天童市立干布小学校

6年1組

位田 絢音 太田 佳希音 小笠原 若葉 奥山 さら 佐藤 マキ
富樫 宗佑 水戸部 さら



We ♥ HOSHINUNO プロジェクト「みんなの笑顔で Happy 干布！」

1 テーマについて

6年生では「干布地区の魅力を発信しよう」というテーマで総合的な学習を行っています。その1つの取組みとして、長い間干布地域と関わりのある「ひまわり迷路」をたくさんの人に知ってもらい、会場に足を運んでもらうにはどうすればいいか、という課題解決に向けて学習を進めました。

2 テーマに基づく活動について

1 ひまわり迷路 PR 作戦

(1) 姉妹校との交流

姉妹校の新宿区四谷小学校を歓迎するために市の地域づくり委員会が制作している「ひまわり迷路」をPRすることで、たくさんの方が干布を訪れ、干布を笑顔でいっぱいになりたいと考えました。PRの仕方として私たちが考えたのは、撮影用のパネルをつくって、テレビやSNSで取り上げてもらうことでした。

市の地域づくり委員会や公民館の方からのアドバイスを受け、顔はめパネルとハート形パネルを制作しました。地域の方からは、クオリティが高い、このパネルを何年も使いたいとの評価をい

いただきました。このパネルは、天童市のホームページや新聞、テレビのニュースなどでも紹介されたほか、インスタグラムにもアップされ、多くの方に来場していただきました。

2 「いろりカフェ」の開催

立谷川扇状地に位置する干布地区は、さくらんぼ、もも、ぶどう、りんご、ラフランスなどの果樹栽培が盛んです。干布産の果物のおいしさを伝えることで地域をつなぎたいという思いから、「いろりカフェ」を開催しました。1回目は、干布小にある「いろりの部屋」を利用して、6年生の保護者限定で開催し、11種類のスイーツを提供しました。2回目は、地域の公民館を利用して4種類のスイーツを提供しました。いずれも好評でした。



『いろりカフェ』へどうぞ！

干布地区のりんごを使った美味しくかわいいスイーツのテイクアウト専門店です。干布小の6年生が作って販売します。どうぞおいでください。

干布地区のりんご100%使用！

りんごの部のアップルパイ (1400円) | パラのミニアップルタルト (1400円) | りんご飴 (100円) | りんごのスムージー (1100円)

日時 10月23日(日) 10:00~14:00

場所 原町公民館 (原町簡易郵便局の裏側です)

3 これからの活動に向けて

今後、ひまわりロードに植えたひまわりの種を東京の四谷小へメッセージを添えて送る予定です。また、昨年度友好関係を築いたオーストラリアのタスマニアの小学校にもひまわり迷路のPRを行いたいと考えています。さらに、今回の取組みでSNSを活用することの重要性を感じました。そこで、地域で活躍する高校生ボランティアサークルHVCとコラボして、SNSを活用したPRができないかなど、現地活動とSNS活用の両面からPR活動を考えていきたいと思ひます。



米沢市立三沢西部小学校

ブナの会

島扇乙葉 庄司光 島扇日和 荒澤陶子



先人に学び、世界を見つめ、未来を想い、足元から行動する

1 テーマについて

林業の歴史がある田沢地区では、草木塔(森林や草木と生きる地域の人達の感謝と畏敬を表した石碑)の精神が「恒久的な豊かさへの祈り」として240年も前から受け継がれてきました。

令和2年には、学区を流れる小樽川沿いの「草木塔」と「木流し」の遺構が日本林業遺産に登録、翌年には米沢市が「SDGs未来都市」に選定されました。

そこで私たちは、「草木塔とSDGs」の視点で探究し、地域の意志を引き継ぎ、森林文化の大切さを発信し、未来を拓くための持続可能な行動を繋げていきたいと考えました。

そして創立100周年を迎える今年度、これまでの学びをまとめ、記念式典等において自分達のメッセージを広く発信することを目標に設定しました。

2 テーマに基づく活動について

(1) 地区の文化の探究成果を発信

各児童が設置した探究テーマに基づいて学習を行い、その成果を創立100周年記念式典で「小樽川の流れ」として発表しました。



(2) 田沢太鼓の披露

児童が児童に教え、引き継いできた田沢太鼓を今年度も継承し、100周年記念式典や地区運動会での開会式におけるアトラクションとして披露しました。



(3) 草木塔の精神を引き継ぐ行動

① 植樹

自分たちで育てた杉苗を植樹し、地域のご協力のもとに世話をしています。



② クリーン作戦

5、6年生が小樽川の源流から日本海まで流れるルートを探検したところ、海岸には多くのごみがあり、海の生物に影響が出てきていることを知りました。最上川の源流に住んでいる者として、児童会総会(ブナ会議)で話し合い、自分たちで企画して作戦を実施しました。

③ 学びの発信

ふるさとの文化について学んだことを、全国緑の少年団活動発表大会で発信しました。

田沢地区の森林文化とともに、田沢っ子として草木塔の精神を引き継ぎ、「先人に学び、未来を想い、足元から行動する」ことで、未来が変わることを伝えることができました。



また、「木流し」についての構成劇を発表したり、他地区の小学生とオンライン交流を行ったりすることで、草木塔文化の価値を発信しました。

3 これからの活動に向けて

本校は今年度末に閉校、3校が統合することになり、3月21日の閉校式が、最後の発信の場となります。

貴重な田沢の文化について私たちが探究した成果を、今後どのようにして残していくかが大きな課題です。探究成果の保存については地域からの期待も大きく、田沢コミュニティセンター等に探究成果を有形保存する要望もあり、今後具体的に展示作品化していく予定です。

東根市立大富中学校

大富農業カンパニー

沓澤魁良 赤塚奏音



持続可能な地域貢献～3年間の挑戦！と品質へのこだわり～

1 テーマについて

3年目を迎えた「大富農業カンパニー」。自分が好きな農業で地域貢献したいと活動を始め、自分たちで野菜や果物を育てて、大富中学校につくった無人直売所で販売しました。



昨年は「地域貢献」について、これまでの取組等情報を振り返り、考え、実際に活動し、評価することで、「地域貢献の仕方」について更に高めていくことをねらいとしました。今年度は「持続可能な地域貢献」をテーマに掲げ、新しいことへの挑戦とともに、これまでの取組みの「質」を高めていくことをねらいとしました。

2 テーマに基づく活動について

(1) 資源回収活動の拡大

昨年度の反省を踏まえ、秋に一度回収を行うことで冬に集まる回収資源の量を減らすことができ、雪の影響を最小限にしました。

生徒会執行部やボランティア等多くの協力を得て、計10回実施し、計17,030kgの資源を回収、58,370円の収益を得ました。収益金を活用して、地区内6か所の施設にマスクや花苗など様々なものを送り、地域貢献を行

いました。



老人ホームに寄付(2か所)

多くの回収物

(2) 地元サクランボを守る活動

高齢化により生産人口が減少しているため、農家を助けたいとの思いから、収穫が困難な農家からのさくらんぼ収穫依頼を受けたり、栽培困難な農家のサクランボ畑を借用し、「質」にこだわった栽培を行ったり、強風などにより被害を受けたビニールハウスの修復を行ったりしました。

資源回収の時のように、この活動においても、生徒会から多くのボランティアが協力してくれました。改めて、自分たちがやりたい活動は、様々な方々の協力によって初めて可能なのだと思います。感謝の気持ちでいっぱいになりました。



(3) 「高品質な品物」のための農業技術強化

「安全・安心でおいしい作物を栽培し、食べた人に笑顔になってほしい」という思いから、地元の果樹農家や市の農業生産者法人・農業委員会、県農業総合研究センター、鶴岡市農政課のご協力を得て農業技術の強化を探究しています。主に、有機栽培、剪定技術、作目着色について取り組んでいます。



3 これからの活動に向けて

3年目を迎えた大富農業カンパニーの活動が、地域では当たり前のように受け入れられています。地域の方からは、来年度以降も続くと良い活動であると評価されました。私たちが卒業した後の活動の引継ぎが課題です。

優秀賞

鶴岡市立櫛引中学校

美術部

佐藤七渚 佐藤聖菜 渡会ひより 佐藤彩羽 佐藤桜子
佐藤雅彩 佐藤祐菜 齋藤康耀 佐藤綾香 佐藤朱莉
菅原千暖



中学生が地域を救う存在に～鶴岡市立櫛引中学校美術部の活動紹介～

1 テーマについて

近年のゲリラ豪雨の影響を受け、鶴岡市内には一級河川の「赤川」が流れていることを踏まえ、地域の水害対策の注意喚起を促す目的で美術部の活動でのリーフレット作成を考えました。国土交通省のホームページなどを参考に、地域住民がそれぞれマイタイムライン(防災計画)を書けるものにしたことで、より意識が高まるようにしました。

2 テーマに基づく活動について

調査の結果、水害時の対応に関する不安が多いことが分かり、水害対策リーフレットの構想を思いつきました。

そして、市役所や地域福祉協議会、地区長、肢体不自由者へのプレゼンテーションや話し合いにより、マイタイムラインをベースにした水害対策リーフレットを作成することにしました。

工夫した点は以下の通りです。

(1)水害対策リーフレット

①4つの避難方法を記載

「どこへ避難すればいいのか」を4つに絞り、イラスト入りで記載しました。

②避難に適した服装の記載

イラストや短く分かりやすい言葉を使い、ポイントを絞って記載しました。

③持ち物リストの記載

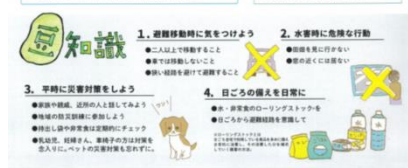
専門家のアドバイスを受け、使いやすいよう、チェックリストを付けた持ち物リストの例を記載しました。

④豆知識の記載

水害対策で特に大切なことを4つに絞って、豆知識として記載しました。

(2)マイタイムライン

私たちが最もこだわったものです。5つの警戒レベルに応じた「私の行動の例」をチェックリストとして記載し、具体的な行動がとれるようにしました。また、身を守る行動が瞬時に分かるよう、下線を引いたり、QRコードを掲載しスマートフォンで情報を得ることができたりする工夫もしました。



マイタイムライン

Table with 4 columns: 警戒レベル, 避難行動, 私の行動の例, 地域の特徴. It details evacuation procedures for different disaster levels and includes a QR code for more information.

(3)洪水ハザードマップ

23 地区それぞれ異なる危険個所を記載することで、より実効性のあるマップにしました。このマップは、櫛引中の防災の授業で実際に活用されました。



3 これからの活動に向けて

実際の水害時に学校が避難所となることから、その時を想定して活用できるピクトグラムの作成とともに、地域の保育園に寄贈するためのオリジナル絵本づくりを行っています。これからも、地域の方々に喜んでいただける活動をしていきたいです。



中学生＝地域を救う存在 地域のために何ができるのか考えていきます！

山形県立山形中央高等学校

チーム・山形しかCATAN!

安達康成 伊藤真徳 小野瀬悠 佐藤慎哉 林枝輔



「やまがた居場所づくりプロジェクト」

1 テーマについて

私たちの活動のテーマは、ボードゲームを中心にした「サードプレイス」をつくることです。生活の基礎となる第一の場所「自宅」や、最も長い時間を過ごす第二の場所「学校・職場」とは別の、居心地のいい第三の場所「サードプレイス」を私たち高校生が作れないか。その居心地のいい「場」で仲間と一緒にボードゲームを楽しんでもらいたい。そして、できれば私たちのように、地域版ボードゲームの制作を通して地域に対する愛着や誇りを持ってもらいたい。以上が私たちの取組みの目的です。

2 テーマに基づく活動について

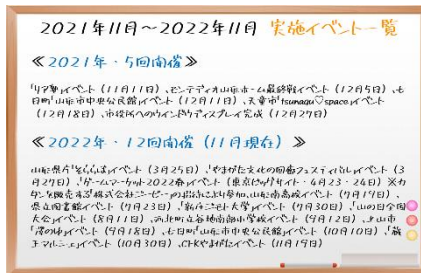
(1) 七日町版・蔵王温泉版カタン制作

昨年度、先生の紹介をきっかけに、地域振興サポート会社「まよひが企画」の佐藤恒平さんと出会い、佐藤さんが完成させた岩手県金ケ崎版カタンの制作過程を紹介していただいたり、佐藤さんが運営するゲストハウスを訪問したりする中で、半年以上をかけ、2種類の地域版カタンがそれぞれ完成しました。



(2) 「チーム・山形しか CATAN!」によるイベントの実施

11月中旬より、コロナ禍で大変な思いをしている地域の観光業、飲食業を、ゲームを通して少しでも盛り上げようと、毎月のようにイベントを開催しました。ちなみに、主催、共催したイベントは、1年間で計17回です。



(3) やまがた居場所づくりプロジェクト

イベント後のアンケートからは、私たちがつくった「場」が、「コミュニケーション」と「笑顔」にあふれていることが分かります。このことから私たちは、コロナ禍にあっても人は「コミュニケーション」ができる居心地のいい「場」を求めていることに気づかされました。そして、調べを進める中で、私たちが求める「場」は「サードプレイス」と定義できることを知りました。私たちは学校の近くに「サード

プレイス」をつくり、その中心に最強のコミュニケーションツール「ボードゲーム」を置きたいと考えました。しかし、肝心の場所選びは難航しました。

そんな中、定期的に通っていた高校生の探究の場「やまがた放課後ラボ」で、ファシリテーターの佐藤恒平さんのアドバイスのもと、他校の仲間たちの賛同を得て「山形市中央公民館」を会場に、居場所づくりを試行してみることが決定。当日は、勉強する人、ボードゲームを楽しむ人など、各自が思い思いの時間を楽しく過ごすことができました。



3 これからの活動に向けて

「サードプレイス」は本来「学校外」にある「場」です。しかし、居心地のいい「場」であれば、どこにあるかは関係ないと思っています。これからも学校内外で放課後や休日にイベントを開催し、私たちがこれまで身に付けてきた「場を盛り上げるスキル」、「明るく開放的な雰囲気をつくるスキル」、「自ら企画を提案するスキル」を磨くと同時に、会話があふれ、仲間が笑顔になれる、私たちのための居心地のいい「場」の形を探っていきたいと思っています。

山形県立鶴岡南高等学校

チームシルク

佐藤結子 伊藤さや



ツクル ツムグ ツナグ シルク

1 テーマについて

シルクとは、蚕の繭からつくられるタンパク質の天然繊維のことであり、江戸時代から鶴岡に伝わる伝統産業の1つです。

シルクの2つの成分である「フィブロイン」と「セリシン」のうち、「セリシン」は、人間の肌とアミノ酸組成が似ています。また、蚕が繭を作る際に最初に出す糸である「きびそ」は、太さが不均一できれいな糸に生成できず、廃棄される部分です。しかし、価格が繭玉の1/7で、成分は絹糸と同じです。

そこで、「廃棄物であるきびそからセリシンを材料として地域に還元できる商品をつくり、街づくりに貢献できないか」と考え、日々研究を進めています。

シルクとは

蚕の繭から作られるタンパク質の天然繊維

フィブロイン セリシン

- 繊維状のタンパク質
- 水に不溶
- 結晶性が高い
- 糊状のタンパク質
- 水に可溶
- 粘着性あり

セリシン 人間の肌

成分	きびそ	絹糸
セリシン	32%	29%
フィブロイン	46%	51%

※資料: 山形県立鶴岡南高等学校

きびそとは

蚕が繭糸を出す前に練習で出す糸。太さがバラバラのためきれいな糸にすることはできない。→廃棄されている！

価格は、繭玉の七分の一 → 安価で手に入る！

しかし、成分は絹糸と同じ。↓
どうか有効活用できないか？

2 テーマに基づく活動について

(1)「シルクノチカラ」への参加

これは、シルクの魅力と可能性に触

れた新たな鶴岡のまちづくりを考えるイベントであり、2年前から参加しています。

(2)シルク未来館の見学

鶴岡シルクの歴史、繭の精練過程などととも、地元の方々と各分野のプロが一体となり、シルクという財産を活かすため試行錯誤を重ねていることを学びました。

また、シルクの製品はポリエステルなどで作られた製品よりも長く使えることに加え、最終的には土に帰るという自然に優しいものであり、SDGsの解決につながることも学びました。

(3)きびそからのセリシン抽出実験

きびそからセリシンの抽出液を生成し、化粧品などに添加することでセリシンの効用を得られる商品をつくりたいと考えました。しかし、きびそから抽出したセリシン溶液は、古い量のような、カビ臭いを放つことが分かったのです。

商品化のためには、この独特の臭いを除去することが必要です。そこで、鶴岡高専の飯島教授の提案を受け、セリシン溶液にシクロデキストリン(植物由来の環状オリゴ糖で、他の分子を取り込む包摂作用がある)を添加することで、臭いが除去できるのではないかと考えています。

シクロデキストリンとは

植物由来の環状オリゴ糖。右のような構造をしている (①)

他の分子を取り込む作用(包摂作用)を持っている (②)

使用例
インスタントおさび、ペットボトルのお茶、等

ご指導いただいている鶴岡高専の飯島教授から提案していただきました。

実験

- きびそからセリシンを抽出。きびそ6gを300mlの蒸留水約80度で煮、セリシンを溶液として抽出
- エバポレーターで溶液を濃縮(5分ごと)
- シクロデキストリンを添加

③で人の鼻で、指標を用い、シクロデキストリンを添加した場合としていない場合の臭いの違いを評価する

(指標)

- 刺激臭
- 草くささ
- カビくささ
- 甘い香り

3 これからの活動に向けて

今後は、実験検証と活用例の模索を並行して進めていきます。活用例としては、セリシン溶液をパウダーまたはゲル化し、入浴剤、食品、ハンドクリーム、化粧水へ添加することを考えています。肌の悩みを持つ人や、高齢者をはじめとする多くの世代の方々に、シルクの優れた保湿効果を実感してもらいたいです。

また、歴史的・社会的・化学的観点からシルクの理解を深めることで、鶴岡シルクの素晴らしさを積極的に発信し、地域創生と地域活性化に貢献するとともに、世界に誇れる鶴岡のシルク産業を守り、新たな形でシルクを生活に取り入れる社会をつくりたいと考えています。

応募校・チーム一覧

【山形市立村木沢小学校】 虹の道 【天童市立寺津小学校】 ○ゴミ問題解決グループ ○住みやすい町づくりグループ ○農業グループ
【天童市立山口小学校】 ○SING ○二子沢魅力発見隊 【天童市立干布小学校】 6年1組
【尾花沢市立宮沢小学校】 5,6年複式学級チーム
【米沢市立南部小学校】 ○YYプロジェクト ○米沢市立南部小学校 6学年 【米沢市立三沢東部小学校】 「三沢大好き」チーム
【米沢市立三沢西部小学校】 プナの会 【米沢市立松川小学校】 第6学年

【東根市立大富中学校】 大富農業カンパニー
【金山町立金山中学校】 小野閃理
【最上町立最上中学校】 ○最上のインスタ ○最上を愛する子 ○魅力発信チーム ○山田葵衣・佐藤こまち・樋口文乃・金子雅・大場樹
○大沼陽奈・渡部百々花 ○高橋萌・五十嵐さくら・大場里紗・佐藤結・阿部花日未
○大場悠翔・佐藤武人・安西七海
【真室川町立真室川中学校】 第3学年 チーム「まむろがわ」
【鶴岡市立榊引中学校】 美術部

【山形東高等学校】 地域紙探究班
【山形西高等学校】 ○ふたりはプリキュア ○Eプレ ○おそぼ探検隊 ○sun色west子 ○子育てを考える会
○高橋七海・鈴木葵・大泉由宇
【山形北高等学校】 KLC(ケー・エル・シー) 【山形中央高等学校】 チーム・山形しかCATAN!
【上山明新館高等学校】 上山市活性化プロジェクト 【東桜学館高等学校】 高橋奏翔・浅黄さら
【置賜農業高等学校】 ニオイ木研究班
【鶴岡南高等学校】 チームシルク

令和4年度応募数
小学校 13チーム (9校)
中学校 11チーム (5校)
高校 13チーム (8校)

総 評

小学生部門



沼野 慈 審査員

「聞き手の理解度を促す表現力」という観点で審査しましたが、小学生がこれほどまでにできるのかと感心しました。QRコード付き看板を設置したり Web 会議ツールにより首都圏や外国の学校と交流したりと、現代の ICT 環境を駆使した活動、地域の特産物について、3年間に渡り、栽培・収穫から地域や他校への PR を通して地域のよさを再発見した活動、「SDGs」の視点により地区の森林文化を発信し、持続可能な未来を拓くための活動、その一つ一つが地域の理解を深め、再発見につながったと思います。

皆さんが実践したふるさと探究の、今後の展開や可能性の広がり期待します。

中学生部門



堀川 敬子 審査員

以前のポスターセッションによる発表と比べ、ICT 機器の発達とともにみなさんのプレゼンテーションの能力が飛躍的に高まっていることを実感しました。どの中学校も、まるで「ミニ行政」のように地域課題と向き合い、どうやって課題を解決していくかを真剣に考えていました。感心したのは、中学生の目線はもとより高齢者や障がい者に対する目線で取り組んでいたところです。また、中学生を応援している大人の数の多さにも気付かされ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

これからは、インプットしたことを広く社会にアウトプットしていく力が必要ですが、皆さんの実践は、自らの「気づき」が深化し見事にアウトプットされています。

高校生部門



渡部 泰山 審査員

地域の資源の良さを引き出したり、これまで廃棄していた部分を活用したりしようという想い、生徒の優しさが滲んだ実践発表でした。ゲームを通じて人と人とを結びつける居場所づくりをしたいという想いによる研究・活動は斬新な趣がありました。いずれも、人や環境への優しさ生徒・先生を含めた専門家が一体となって粘り強く研究を進めており、商品化や活動の広がりという今後の発展が期待できるものであり、みなさんの純粋な発想のきらめきに、日本の未来の希望が見てとれました。

今後は多様性を尊重していく時代です。他者へのリスペクトを前提としながらも、誰かと比較するのではなく、自分の個性を大切にしていって欲しいと願っています。

本実践記録集や最終審査会当日の発表の様子の動画は、山形県ホームページで閲覧できます。「ふるさと探究コンテスト」で検索
主催 山形県教育庁教育政策課 〒990-8570 山形市松波2丁目8番1号 TEL023-630-2692